

駅北復興まちづくり計画で目指すまちの姿に向かって

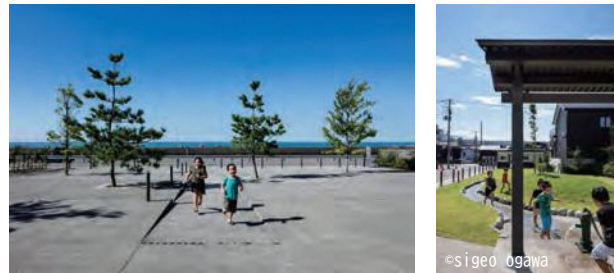
糸魚川市駅北復興まちづくり計画(2017(H29)-2021(R3))における、「災害に強いまち」「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」の実現に向けて、まちは変わり続けてきました。※国や県から支援を受け実施した主な事業を掲載

【市道の拡幅】(都市防災総合推進事業)

■緊急車両の通行や住民の避難行動を円滑にする道路幅員を確保



■市民公園(防災公園)の整備



【景観づくり】(街なみ環境整備事業)

■雁木の再建支援、無電柱化、道路の美装化により、旧加賀街道の歴史を感じさせる街並みの再生を目指しています。



◆2021(R3)年 都市景観大賞 特別賞を受賞◆

【消防力の強化】(消防防災施設整備事業)

■被災地内とその近隣に耐震性大型防火水槽(200トン1基、100トン1基)を整備し、自然水利の活用と合わせ消防水利を確保



■消防隊員、消防団員の資機材を整備。こども消防隊(2017.12結成)が活動中!



【復興市営住宅】(小規模住宅地区改良事業)

■自己再建を断念された方から入居いただく市営住宅を建設(景観と不燃化を両立した木造準耐火建築物) 18戸入居可



【にぎわいづくり】(都市再生整備計画事業)

■にぎわい創出広場(駅北広場キターレ)の整備



■地域団体等による実践活動の推進



全国の皆さまからのご支援に感謝申し上げます

糸魚川市駅北大火からの復興



■糸魚川市駅北大火

【日時】 [出火] 平成28(2016)年12月22日 10時20分頃 [鎮火] 12月23日16時30分 ※約30時間延焼
 【被害】 焼損棟数: 147棟 被災者: 145世帯260人 被災事業所: 56事業所
 焼失面積: 約40,000㎡(4ha) 負傷者: 17人(一般2人、消防団員15人) ※死者は無し
 【気象】 気温18.4℃、湿度54.7%、最大瞬間風速27.2m/秒(南南東の風) ※いずれも糸魚川市消防本部観測



■糸魚川市駅北復興まちづくり計画を完了

平成29年(2017)8月に策定した「復興まちづくり計画」は、火災や災害に強いまちづくりや糸魚川らしい景観・まちなみの再生に取り組むことを位置付けていました。令和4年(2022)3月に計画期間を終え、74件の施策を完了しています。



糸魚川市は“カタイ絆”で、まちのにぎわいと
笑顔をやみがえらせます



被災地上空から見た復興の軌跡



2016.12.25撮影(3日後)
道路上のガレキが取り除かれ車両の通行が再開

大火から3日後。消失を免れている左右と中央の大きい建物は金融機関で3連休明けとなる写真撮影日翌日のから営業を再開した。中央奥に見える赤い屋根の住宅も奇跡的に焼失を免れる。



2017.10.17撮影(10か月後)
用地測量を終え建物ガレキの撤去が完了

大火から10か月後。用地測量を終えた7月以降、順次建物基礎部分の撤去を進め完了した状況。この間、8月には復興まちづくり計画を策定公表しており、写真中央上部では、新潟県最古といわれる酒蔵の基礎工事が始まっている。土地区画整理を行う一部の区画を除き、住宅等の再建が可能な状態となった。



2020.9.6撮影(4年後)
復興市営住宅は平成30年4月に完成
中央に駅北広場「キターレ」を整備

駅北広場「キターレ」(本写真撮影年の2020年4月から供用開始)と中央上部には市営住宅となる駅北復興住宅(2019年4月完成・入居開始)を整備。



2022.10.20撮影(6年後)
地区の東西を貫く本町通りの無電柱化が完成

平成29年(2017)8月に策定した駅北復興まちづくり計画(5年、2017年-2021年)を終え、整備した施設を核に地元商店街の催しや自治会の防火活動、駅北まちづくり戦略における実践活動等が進めている。